

# 平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりが主体的に取り組む活動のある授業づくりを実践し、学習習慣の定着を図る。</p> <p>②学校行事及び生徒会活動等を充実させ、主体的に取り組む姿勢を育てる。</p>	<p>① 生徒一人ひとりに興味・関心・意欲を持たせ、授業改善を推進し、基礎学力を定着させる。</p> <p>② 主体的かつ積極的な生徒会活動を継続的に実行できるよう、継承する体制を育み構築する。</p>	<p>① クリエイティブスクール2年目として授業のユニバーサルデザイン化と評価方法を工夫し、授業改善を推進する。</p> <p>② 生徒会活動の一般生徒への見える化を意識した活動を行い、生徒会活動に興味を持つ生徒を増やす工夫をする。</p>	<p>① 授業のユニバーサルデザイン化や評価方法を工夫することができたか。</p> <p>② 生徒自身が生徒会活動を見える化する工夫ができたか。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①教育相談体制を整え、生徒一人ひとりの「困り感」や教育的ニーズを把握し、教員間で情報を共有して支援にあたる。</p> <p>②部活動の活性化を図り、規範意識や責任感、コミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>① 個別の事情に配慮しつつ、他者への思いやりの心を育て、家庭との連絡を密にし、教育相談体制の充実ときめ細かい支援・指導を行う。</p> <p>② 部活動の活性化と加入率を上昇させ、様々な地域連携行事に参加し、結びつきの強化を図る。</p>	<p>① 教育相談組織と連携し、「いじめ」の早期発見に尽力する。また、生徒、保護者に「いじめ」についての正しい理解を共有してもらう。</p> <p>② 1学年の担任団と連携し、生徒への加入の働きかけをおこない、また、部活動を単位とした新たな地域連携を考える。</p>	<p>① いじめの萌芽の発見と被害生徒、加害生徒、傍観者生徒への支援・指導を行えたか。</p> <p>② 学年団と連携した部活動への積極的な入部の働きかけができたか。新たな地域との連携した活動を実践できたか。</p>
3	進路指導・支援	学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	様々な教育活動を通して、個々の進路実現のために積極的に取り組めるよう、組織的・体系的なキャリア教育を展開する。	生徒が主体的に学び直しに取り組み、進路説明会及び講演会へ積極的に参加する姿勢を養う。そのために、学年及び分掌・SCC・SSW・ハローワーク等が連携を密にし、個別支援体制の充実を図る。	進路実現を図るための進路説明会及び講演会へ積極的に参加し、特に最終学年の就職希望者については、全員内定を目標とする。
4	地域等との協働	家庭・地域と学校間の連携を強化し、信頼される学校づくりを推進する。	家庭・地域との連携を強化し、その教育力を活用して地域とともにある学校づくりを推進し、貢献できる生徒を育成する。	校外の掲示板やHP等を用い、生徒の活動や学校行事などの情報を、地域や保護者へ情報発信する。 保護者との信頼関係を築き、協力してもらえる学校行事を増やす。	地域・保護者への最新の情報を知らせるために、掲示板やHP等の更新ができたか。 保護者の積極的な関わりが見られたか。
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に対する自覚を促す取組みを組織的・継続的に行い、安全・安心な学校づくりに努める。	事故・不祥事の防止に対する自覚を常に促し、意識啓発に組織的に取り組み、安全・安心な学校づくりに努める。	事故・不祥事防止会議の内容を厳選し、事故不祥事ゼロを目指す。 防災や交通安全等の取組み、成績処理等の点検作業、個人情報等の管理等を確実にを行う。	事故・不祥事防止会議を年間10回以上開催し、職員の共通理解を図れたか。 人的ミスによる学校事故がなかったか。